

「戦争への道は歩まない」

みやぎ女性のつどい

秋晴れの十月二十五日、「戦争への道は歩まない」みやぎ女性のつどいが仙台フォレストで開催されました（同実行委員会主催）。呼びかけ人をはじめ、実行委員会や事務局に婦人民主クラブの会員がたくさん参加して、「つどい」成功への大きな力となりました。（仙台支部）



仙台の街を元気にピースパレード

舞台正面には、赤や黄のバラに彩られた大看板が掲げられ、会場に華やかさを添えています。

オープニングは仙台でのぞみ文庫を主宰している川端英子さんによる「仙台弁で語る日本国憲法」です。仙台で生まれた育ったほんまもん仙台弁が「憲法前文」をゆったりと、ユーモアたっぷりに語ります。話し手の思いが方言を通して参加者の心にとどいた素晴らしいオープニングとなりました。

次いで高遠菜穂子さん

（イラク支援ボランティア）が「泥沼のイラクから学ぶー日本は、平和のイニシアティブをー」と題して講演しました。硬い表情で登壇した高遠さん

泥沼のイラクから学ぶ

高遠菜穂子さん

①日本は「情報鎖国」である。②イラク戦争の検証。今日はこの二つの問題を踏まえて「イスラム国」対策には武力行使しかないのか、別の解決策を考えるためには現在の報道・情報で十分なのかを考えていきたい。

①日本にもどるといっても世界から隔絶されていると感じる。ヨルダンにいてさえも日本の百倍の情報を得ていると思う。日本では情報が省略され過ぎていて、世界で何が起きているのかよくわからない。

ある外国人はこの状況を「情報鎖国」と言っている。今は第三次世界大戦と言う人もいる。国と国、国境をはさんでの戦争でもなく、宣戦布告もないネットワークの戦争である。

は開口一番「こんなにたくさん皆さんの皆さんに全く楽しくない話を聞いていただき感謝です」と会場からの笑いを誘いながら次のように話しました。

ることが予想されたが、まさかこんなに早く事態が進むとは…。

イラクは元々世俗国家で多様な民族が共存して政教分離の政治をおこなっていた。九条をもつ日本に対しては「アッアの友」と呼び、特に親しみをもっていた。

二〇〇三年大量破壊兵器所有を口実に米・英軍はイラク空爆、侵攻。フセイン政権は崩壊した。

二〇〇四年米軍はファルージャで武装勢力の掃討作戦を行ない、イラクの民間人多数を虐殺。

アングレイブ刑務所ではイラク人を拷問虐殺。情報を引き出すための拷問がやがて米兵のゲーム的楽しみとなる。イラク人の遺体をトラックで轢

いたり引きずったりの蛮行を行ない、米兵への憎悪が多数のイラク人に戦いを決意させた。

同年日本の自衛隊が軍服を着てサマワに入り、日本とイラクの友好感情に敵意が加わる。ファルージャで日本人三人がイラク武装勢力に拘束され（のち解放）、その後一人の日本人が武装勢力に殺害された。

二〇〇五年ブッシュ大

統領は大量破壊兵器情報の誤りは認めしたが謝罪はしなかった。小泉首相は誤りも認めず謝罪もせずこの点についてはアメリカに追随しなかった。

米兵が最初から残虐者だったわけではない。軍の教育は殺される前に殺せというもの。米兵のイラクでの戦死者も四千人にのぼり、帰国した米兵の自殺者もすでに戦死者数を上まわる。PTSD（心的外傷後ストレス障害）で苦しむ帰還兵は数知れない。

イラクでは米軍が使った劣化ウラン弾による内部被曝や土壌汚染、白リン弾によるやけどなど、深刻な健康被害を受けている。

胎児の先天異常は、無脳、口蓋破裂、小頭症、心臓疾患など数知れない。科学的知識も計器もなく無防備状態である。

イラク派遣の米軍主力部隊は日本で白リン弾を使った訓練を受けている。

私たちは両方を知らなければならぬ。

私たちが知らなければならぬ。

講演後のピースパレードには百人をこえる人々が参加して、女性も男性も首にピンクのスカーフを巻いて仙台の街を元気にアピールしながら行進しました。

初めて取り組んだ女性のつどいでしたが、六十七人の呼びかけ人の熱意に賛同する三百人以上の人々、六十以上の団体の物心両面の後押しを得てつどいは大成功に終わりました。

た。海兵隊は富士演習場で、空軍は千歳で煙幕や照明弾を使って訓練を受けた後、沖縄から出発してファルージャ総攻撃に加わった。

「イスラム国」ができたのは二〇〇三年。米軍の対テロ作戦が集中したスンニ派地域アンバール、隣国シリアで勢力を拡大しイラクにもどったが、イラクのシーア派政権の残虐行為に耐えかねてスンニ派武装勢力と合流。「イスラム国」による犠牲者が千人単位ならスンニ派の犠牲者は万人単位に及んでいる。

国際社会はイラク政府・内務省の残虐行為になにも言わない。同盟国イラク政府の対テロ作戦ならどんな残虐行為も認めける。「イスラム国」の残虐行為ばかりを報道している。

私たちは両方を知らなければならぬ。

講演後のピースパレードには百人をこえる人々が参加して、女性も男性も首にピンクのスカーフを巻いて仙台の街を元気にアピールしながら行進しました。

初めて取り組んだ女性のつどいでしたが、六十七人の呼びかけ人の熱意に賛同する三百人以上の人々、六十以上の団体の物心両面の後押しを得てつどいは大成功に終わりました。

つどいは大成功に終わりました。

つどいは大成功に終わりました。

つどいは大成功に終わりました。

会場いっぱいになった参加者

